Press Release　2021.12.9

ミケル・バルセロ展　プレスリリース

1

世界を挑発する現代スペインの代表的アーティスト ミケル・バルセロ、日本初の回顧展がいよいよ東京（最終会場）へ！

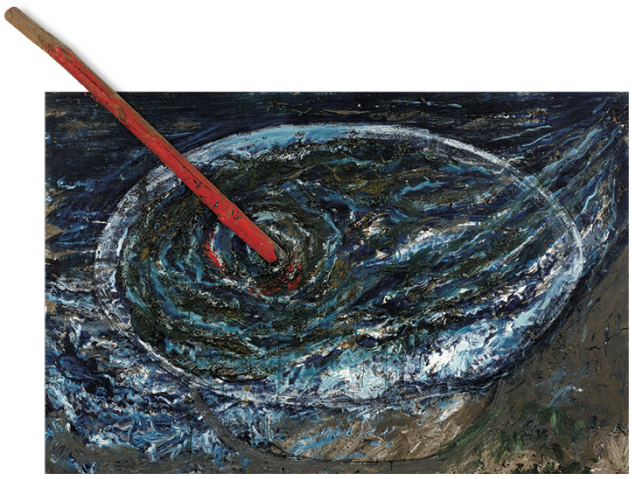
ミケル・バルセロ（1957- ）は、1980 年代より欧州を中心に精力的な活動をおこない、現代芸術を牽引する美術家の一人として評価されています。国立国際美術館、長崎県美術館、三重県立美術館、東京オペラシティアートギャラリーを巡回する本展は、日本国内で初めて彼の仕事の全貌を紹介するものです。

バルセロは、スペインのマジョルカ島に生まれ、1982 年に国際美術展「ドクメンタ７」（ドイツ・カッセル）で鮮烈に登場して以来、生地マジョルカ島をはじめ、パリ、アフリカのマリ、そしてヒマラヤなど世界各地に活動の場をひろげ、各地の歴史や風土と対峙するなかで制作をつづけてきました。

その制作は、絵画を中心に、彫刻、陶芸、パフォーマンスなど領域を越えてひろがり、近年ではマジョルカ島のパルマ大聖堂の内部装飾や、スイス・ジュネーブの国連欧州本部 人権理事会大会議場の天井画など、壮大な建築的プロジェクトにも結実しています。

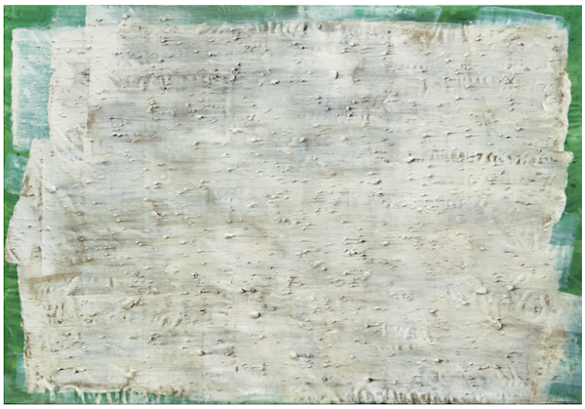
バルセロの作品では、海と大地、動植物、歴史、宗教といったテーマが大きな位置を占めています。バルセロは、さまざまな素材との格闘を通してそれらのイメージを生み出します。物質の存在感と結びついたそれらのイメージは、プリミティブな荒々しさと、神話的、呪術的な力を秘めており、それでいて豊かな洞察と知性の裏打ちを感じさせます。

2



3

4



5

6

バルセロの作品は、自然や宗教、歴史、風土とのかかわりから人間の存在をあぶり出し、その根源への問いを投げかけるとともに、絵画のいまだ知られぬ力を語りかけてやみません。

本展は、長らく日本でほとんど未紹介であったこの画家の、国内の美術館で初の個展として、巨大なスケールをもつ絵画作品を中心に、彫刻、陶芸、パフォーマンス映像などを加えた約 90 点で初期から現在までの活動を紹介します。

本展の特徴と見どころ

1．日本ではほとんど未紹介のスペインの代表的アーティストの40年にわたる活動の全貌を紹介
我が国ではほとんど受容が進んでいなかった「幻の画家」の全貌を知る貴重な機会です。

2．スケール感豊かな大画面の絵画群
縦横2〜3メートルを超すサイズの大画面が並ぶさまはまさに圧巻。それぞれの画面は、画家の行為の痕跡と物質としての存在感を豊かにたたえ、そのなかから濃密なイメージが鮮烈に立ち上がります。

3．親しい人々をとらえた特異な肖像作品
暗色の画布に漂白剤で描くバルセロ特有の肖像画「ブリーチ・ペインティング」。描いてから時を経てはじめて浮かび上がる人々の相貌は、イメージの生成と消滅に意識的なバルセロの特異な関心を物語ります。

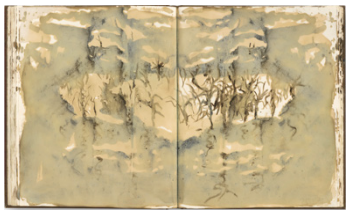
４．絵画の延長としての陶作品
暴力的なまでの力を加えてから窯で焼いた陶器が示す物質的な痕跡を、バルセロは魚や馬、植物、人体などのイメージに変容させます。壺や花瓶、鉢などの陶作品はバルセロにとってまさに絵画の延長なのです。

５．多様な領域にわたる制作のひろがりを紹介
絵画や陶作品、さらに水彩、ドローイング、スケッチブック、ブロンズ彫刻やパフォーマンス映像などを加え、バルセロの制作活動のひろがりを紹介。そこでは、物質とイメージとの不即不離の交錯から、自然と人間存在の根源への大いなる探求に飛翔する画家の想像力がつねに躍動しています。

7

8

9

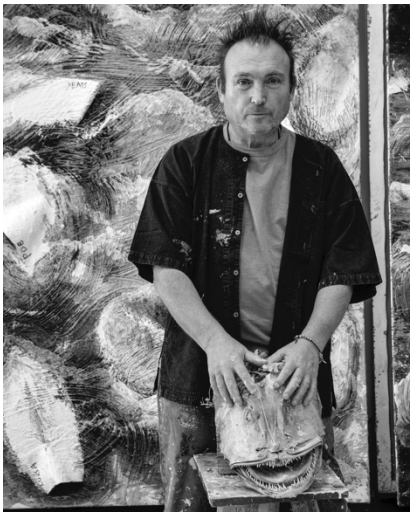

10

11

12

13

画像クレジット　※作品画像はすべて ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021.
1《雉のいるテーブル》1991、作家蔵　Photo: ©Galerie Bruno Bischofberger
2《亜鉛の白：弾丸の白》1992、作家蔵　Photo: ©André Morin
3《海のスープ》1984、作家蔵　Photo: ©André Morin
4《J. L. ナンシー》2012、作家蔵　Photo: ©André Morin
5《緑の地の盲人のための風景 II》1989、作家蔵　Photo: ©André Morin
6《細長い図書室》1984-1985、作家蔵　Photo: ©Agustí Torres
7《とどめの一突き》1990、作家蔵　Photo: ©André Morin
8《飽くなき厳格》2018、個人像　Photo: ©Galerie Bruno Bischofberger Courtesy: Galería Elvira González
9《大蛸》2016、作家蔵　Photo: ©Agustí Torres
10《グラン・バッサム》1990-1991、作家蔵 Photo: ©André Morin
11《漂流物》2020、作家蔵　Photo: ©David Bonet
12《銛の刺さった雄牛》2016、作家蔵　Photo: ©André Morin
13《カピロテを被る雄山羊》2006、作家蔵　Photo: ©Galerie Bruno Bischofberger



ミケル・バルセロ、マジョルカ島ファルーチのアトリエにて、2020 年　撮影：ジャン=マリー・デル・モラル
Miquel Barceló, Farrutx, 2020, photograph by Jean-Marie del Moral www.jeanmariedelmoral.com

ミケル・バルセロ

1957 年、スペイン・マジョルカ島生まれ。パルマ・デ・マジョルカとバルセロナの美術学校で学ぶ。1976 年、前衛芸術家のグループに参加。1982 年の「ドクメンタ 7」（ドイツ・カッセル）で国際的な場に登場して以降、マジョルカ島、パリ、アフリカなど各地にアトリエを構えて精力的に制作。1988 年には過酷な風土と孤独を求めアフリカを旅し、以後、繰り返しマリに滞在し制作。絶えず変化を求める多産の芸術家であり、その制作は、絵画をはじめドローイングや旅のノート、本の挿絵、彫刻、陶作品、パフォーマンス、舞台美術、そしてパルマ大聖堂（マジョルカ）のサン・ペール礼拝堂内部装飾（2007 完成）やジュネーブの国連欧州本部人権理事会大会議場天井画（2008 完成）など、壮大な建築的プロジェクトにまでおよんでいる。ヴェネツィア・ビエンナーレにたびたび出品し、2007 年にはアフリカ、2009 年にはスペインの代表を務めた。先史時代の洞窟壁画に強い関心を持ち、ショーヴェ洞窟のレプリカプロジェクトでは学術委員に名を連ねた。2013 年にはフランス文化賞より芸術文化勲章「オフィシエ」を、2020 年にはスペイン・カタルーニャ自治州政府よりサン・ジョルディ十字勲章を受章。日本での大規模な個展は今回が初めてとなる。

1957 年	スペイン・マジョルカ島に生まれる。
1974-75 年	パルマ・デ・マジョルカ、ついでバルセロナの美術学校に学ぶ。
1976 年	この頃前衛芸術家のグループや自然保護団体とアナーキストのグループの行動に参加。
1982 年	ドイツ、カッセルで開催の国際美術展「ドクメンタ 7」に出品し、ヨーゼフ・ボイス、ジャン=ミシェル・バスキアらと出会う。
1984 年	パリに拠点を置く。ヴェネツィア・ビエンナーレに参加（1995 年、2007 年、2009 年にも参加）。
1985 年	この年から翌年にかけ初の大規模な個展がフランス、スペイン、アメリカの美術館を巡回。
1986 年	マジョルカ島の古い狩猟館を住居兼アトリエにする。ニューヨーク、レオ・カステリ画廊で個展。
1988 年	初めてアフリカを旅しサハラ砂漠を縦断。マリにアトリエを構え、以後繰り返し滞在し制作。
1993 年	アルタミラ洞窟壁画を訪れる。
1994 年	ロンドン、ホワイトチャペル・アート・ギャラリーで回顧展。
1995 年	マリで陶作品の制作を始め、以後欧州各地で制作。
1996 年	パリ、ジュ・ド・ポーム国立美術館とポンピドゥー・センターで回顧展。
2000 年	パリ装飾芸術美術館で陶作品による個展。
2002 年	ダンテ『神曲』の挿絵制作。
2005 年	ショーヴェ洞窟壁画を訪れる。のち洞窟のレプリカプロジェクトで学術委員に名を連ねる。
2006 年	第 60 回アヴィニョン演劇祭で振付家・ダンサーのジョセフ・ナジとともにパフォーマンス《パソ・ドブレ》を行う。ルガノ近代美術館で大回顧展。
2007 年	マジョルカ島のパルマ大聖堂サン・ペール礼拝堂の陶による内部装飾が完成。
2008 年	スイス・ジュネーブの国連欧州本部人権理事会大会議場の鍾乳洞のような天井画が完成。
2010 年	アヴィニョン教皇庁等を会場に「大地-海」展開催。
2011 年	ヒマラヤを訪れる。
2017 年	インドとヒマラヤを訪れる。北インドでゲーテ『ファウスト』第一巻の挿絵制作。
2018 年	哲学者ジャン=リュック・ナンシーとイメージとテキストによるコラボレーション（未発表）。
2021 年	マラガのピカソ美術館で個展。

【ミケル・バルセロ展 開催概要】

展覧会名：ミケル・バルセロ展
会期：2022 年 1 月 13 日[木] - 3 月 25 日[金]　＊61 日間
会場：東京オペラシティ アートギャラリー（ギャラリー1,2,3,4）
開館時間：11:00-19:00（入場は 18:30 まで）
休館日：月曜日（祝日の場合は翌火曜日）、2 月 13 日［日・全館休館日］
入場料：一般 1,400［1,200］円／大・高生 1,000［800］円／中学生以下無料
主催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団、国立国際美術館、読売新聞社　　協賛：日本生命保険相互会社
協力：相互物産株式会社　　後援：スペイン大使館、インスティトゥト・セルバンテス東京、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本　　制作協力：ファクト・コンセプトゥール／瀧脇千恵子
お問い合わせ：050-5541-8600（ハローダイヤル）
＊同時開催「project N 85 水戸部七絵」の入場料を含みます。
＊［　］内は各種割引料金。障害者手帳をお持ちの方および付添 1 名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。
＊新型コロナウイルス感染症対策およびご来館の際の注意事項は当館ウェブサイトをご確認ください。
◎最新の情報は随時当館ウェブサイト、SNS および特設サイトでお知らせします。

■本展覧会に関するお問い合わせ
東京オペラシティ アートギャラリー　【学芸担当】福士理　【広報】吉田明子、市川靖子
Tel：03-5353-0756 / Fax：03-5353-0776 / Email：ag-press@toccf.com